

海拔一萬
一千尺上
の大部落

喇嘛教の
靈場

一九 小西藏レー

レーは山間唯一の大部落にして、カルドン嶺南の直下に位置し、海拔一萬一千二百六十六尺、人家約二百戸、一小市街を成形す。而して之が附近の人家を合計すれば、約一千五百戸、住民の大部は喇嘛教信者たる『ポット』人にて、東方に聳ゆる高丘上には、崇嚴なる喇嘛廟ありて、山中の一偉觀たり。されば此の地方は、該宗靈場の一にして、是れ小西藏の名のある所以なり。市内には一小官衙を置き、英國大尉一員（當時スリナガルに出張不在）、土兵三十人許を統べて、駐在し、外にカシミヤ官吏二名あり。又電信局、郵便局、税局等を設く。氣候は六、七、八の三箇月は、恰も我國の春秋期の如く、他は皆冬に屬す。予の當地に滞在するもの二日間共に雪を降らず。予は此の滞在休養間に於て、其の東方一日程に在る、有名なる喇嘛廟を拜觀するの豫定なりしも、吹雪の爲め果さざりき。

予の此地に着せし時、郵便局は、一封の信書を送り來る。是れ在印度駐在官稻垣中佐のカルカタより發せし信書なり。書中次の如く記す。

參謀本部より電命あり、貴官と共に印度旅行を爲す。依て貴官レーに到着せば